



[公財] 日本太鼓財団

NIPPON TAIKO FOUNDATION

会報

発行・編集 2015年 4月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

公益財団法人日本太鼓財団 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:http://www.nippon-taiko.or.jp Email:info@nippon-taiko.or.jp

橘太鼓『響座』ジュニアが447チームの頂点に立ち3度目の栄冠に輝く！

第17回日本太鼓ジュニアコンクール



(選手宣誓:「火の神乙女太鼓 爽」平田 理子さん)

3月22日(日)、日本太鼓財団主催、長野県支部主管により第17回日本太鼓ジュニアコンクールを長野県長野市のホクト文化ホールにおいて満員となる2,100名のお客様を前に開催いたしました。

内閣総理大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞を目指して全国36都道府県(予選実施34支部400チーム4,114名、支部推薦6チーム)から選抜された52チーム586名(最年少6歳、出場者平均年齢15.9歳)に加え、ブラジルチーム12名(予選19団体191名参加)、台湾チーム12名(予選22団体254名参加)の総勢610名が出場しました。さらに今年は初めてアルゼンチンから「日亜学院・ブエノスアイレス太鼓」(14名)が特別出演として参加いたしました。

開会式は、優勝旗を手にした前年度の優勝チーム「岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組」(福島)、アルゼンチンの「日亜学院・ブエノスアイレス太鼓」、ブラジルの優勝チーム「ブラジリア光太鼓」、台湾の優勝チーム「葫蘆墩(ふるとん)Smile太鼓團」が中央に並び、全チームが整列して行われました。

国歌斉唱に続き、日本太鼓財団塩見和子理事長、藤森靖夫県民文化部長、加藤久雄長野市長、小坂憲次元文部科学大臣、古屋邦夫日本太鼓財団長野県支部長が挨拶。そして、「岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組」より優勝旗並びに優勝杯が返還され、優勝杯レプリカと太鼓が贈呈されました。

続いて抽選で出演順1番目となった鹿児島県代表「火の神乙女太鼓 爽」の平田理子さんが、堂々とした選手宣誓を行い、次いで長谷川副会長による初っ切り太鼓が演奏され、いよいよコンクールが幕を開けました。出場54チームは、大会要領に基づき長谷川副会長作曲による課題曲「碧空」と自由曲を5分以内で演奏しました。各チームの演奏が終わる度に、満員のお客様より心からの拍手と声援が送られました。

54チームの演奏の後、アルゼンチンの「日亜学院・ブエノスアイレス太鼓」、前回優勝した「岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組」が特別演奏を披露し、全ての演奏が終了しました。閉会式では、審査委員の渡辺貞夫氏と喜多郎氏の講評と塩見審査委員長より総評があった後、結果が発表され、「橘太鼓『響座』ジュニア」(宮崎)が栄えある内閣総理大臣賞に輝きました。

優勝チームが発表された瞬間、会場の張り詰めた空気が一転し、割れんばかりの拍手が沸き起こりました。

「橘太鼓『響座』ジュニア」は、13歳から18歳までのメンバー14名で構成されたチームで、代表の岩切邦光氏の指導の下、練習を積み重ね、大会初となる3度目の優勝に輝きました。また、「信濃国松川響岳太鼓子供会」(長野)が準優勝となり総務大臣賞を受賞。第3位の「葫蘆墩Smile太鼓團」(台湾)が文部科学大臣賞を受賞しました。「ブラジリア光太鼓」(ブラジル)は、特別賞を受賞しました。

出場全チームがこれまでの練習の成果を余すところなく発揮し、共に競い合った一日でした。今回の大会を通じて多くのことを学び、今後の活動に活かしていくことを期待しております。

また今回もインターネットによる全世界生中継を行い、会場に来られなかった方々から大変好評を博しました。開始直後よりブラジルをはじめ海外からも感想などの書き込みが寄せられました。

最後に、審査委員、技術委員の先生方、ご父兄並びにご来場の皆様、そして参加者のために行き届いた心配りをして下さった延べ350名もの長野県支部の皆様にご心より感謝とお礼を申し上げます。

第18回大会は、大分県大分市で開催！

第18回日本太鼓ジュニアコンクールは、来年2016年3月20日(日)、大分県大分市の「iichiko総合文化センターグランドシアタ」にて開催致します。

受賞一覧

優勝・内閣総理大臣賞

準優勝・総務大臣賞

第3位・文部科学大臣賞

第4位

第5位

特別賞

長野県教育委員会賞

長野県議会議長賞

長野市長賞

長野市教育委員会賞

長野商工会議所会頭賞

(公財)ながの観光コンベンションビューロー賞

信濃毎日新聞社賞

NHK長野放送局長賞

株式会社浅野太鼓楽器店賞

有限会社諏訪響太鼓店賞

ブラジル太鼓協会賞

台湾太鼓協会賞

アルゼンチン太鼓協会賞

国際友好賞(太鼓贈呈)

国際友好賞(太鼓贈呈)

国際友好賞(太鼓贈呈)

橘太鼓「響座」ジュニア(宮崎県)

信濃国松川響岳太鼓子供会(長野県)

葫蘆墩Smile太鼓團(台湾)

手取亢龍若鮎組(石川県)

日向の国「響」(宮崎県)

熊本市立必由館高等学校 和太鼓部(熊本県)

日南太鼓衆「爽空」(宮崎県)

ブラジル光太鼓(ブラジル)

東京都立美原高等学校 和太鼓部(東京都)

天城連峰太鼓(静岡県)

青木村義民太鼓保存会こまゆみ会(長野県)

おおむら太鼓連くじら太鼓(長崎県)

人吉ねぶか太鼓(熊本県)

海老名東柏太鼓(神奈川県)

和太鼓たぎり(福岡県)

輪島・和太鼓 虎之介(石川県)

あそびっ鼓組“遊”(青森県)

火の神乙女太鼓 爽(鹿児島県)

ブラジル光太鼓(ブラジル)

葫蘆墩Smile太鼓團(台湾)

日亜学院・プエノスアイレス太鼓(アルゼンチン)

*優勝した「橘太鼓『響座』ジュニア」(宮崎)から感想文をいただきましたので掲載致します。

第17回日本太鼓ジュニアコンクールを終えて

代表 岩切 邦光

橘太鼓「響座」ジュニアは、2005年に愛知県で行われた愛・地球博におけるジュニア太鼓フェスティバルでのオープニング出演をきっかけに結成したチームです。翌年の第9回日本太鼓ジュニアコンクール京都大会に初参加し特別賞を受賞して以来、今回の長野大会で4回目の出場となりました。

大会前、我が太鼓の師、ゆふいん源流太鼓の長谷川義代表の激励の言葉「響座は響座らしく、お前はお前らしく」を胸に秘め、初心の気持ちで参加致しました。

今回の大会は、子供達の保護者の方々にわがまを言い、子供達の体調面を整えるため、普段の自宅から道場までの毎日の送り迎えと同じように、本番会場の長野市まで現地集合・現地解散としました。保護者の皆様に感謝いたします。

大会当日の長野においては、スタッフの皆様の臨機応変な対応と心温まるおもてなしを受け、さすが長野県支部という印象を受けました。

ジュニアコンクールに参加することは、子供達にとって最高の思い出となりました。しかも優勝したことにより、内閣総理大臣賞という名誉ある賞をいただき身の引き締まる思いです。

子供達の為に素晴らしい大会を開催して頂いた、日本太鼓財団の松本会長、塩見理事長と財団の方々、運営にあたられた古屋支部長並びに長野県支部の皆様、全九州太鼓連合の長谷川名誉会長、苦楽を共にした全九州太鼓連合の仲間、橘太鼓響座のメンバー、指導員、そしてご家族の協力に心から感謝いたします。

最後に子供たちが、この優勝におごることなく、更に練習に励むよう指導に努めていきたいと思えます。



(優勝時の演奏)



(優勝「橘太鼓『響座』ジュニア」・宮崎)

全国大会を通して

橘太鼓[響座]ジュニア リーダー 山床 海(17歳)

「26番」。私達のチームが優勝チームとして発表された時、様々な思いが自分の頭を駆け巡り、涙が止まりませんでした。

第17回日本太鼓ジュニアコンクール、これが泣いても笑っても、私の人生で最後のジュニアコンクールでした。私はこれまでに、ジュニアコンクールで2度の優勝を果たすことができ、今回演奏した「日向若衆」という曲は、私が最初に優勝した時に演奏した曲でした。そのため、この曲には特別な思いがあり、「初心を忘れず」という言葉をモットーに、学校に行く前に行われる毎朝6時半からの練習と毎晩の練習に一生懸命取り組んできました。しかし毎日の練習で、両親には大変な迷惑をかけてしまったと思います。仕事に行く前や、帰ってきてから、休む暇もなく練習の送迎や衣装の洗濯をしてくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。

演奏前、緊張していた自分に「悔いの残らない演奏をしよう。そして感謝の気持ちを太鼓の音で表現しよう。」と自分に言い聞かせました。そして、5分間の演奏を終えた後、私には何の悔いも残っていませんでした。結果発表で優勝と分かった時、嬉しいという感情よりも家族や親戚、太鼓の指導をしてくださった先生方にやっと恩返しができただんだなと思いました。

これから来年の全国大会まで、優勝チームとして活動していくことになります。自分達の今の力が劣らないように、また今よりもっと良い演奏ができるように、来年の全国大会の模範演奏に向けて、日々練習に励み、努力していきたいと思います。

「勝っておごらず、負けて腐らず」この言葉を胸に、新しい一歩を踏み始めていきたいです。

審査委員

塩見 和子(財団理事長)*審査委員長
王 妙 涓(台湾太鼓協会理事長)
岡田 知之(洗足学園音楽大学名誉教授)
喜 多 郎(音楽家)
西角井正大((公財)国立劇場おきなわ運営財団理事)
長谷川 義(財団副会長)
古屋 邦夫(財団技術委員会委員長)
渡辺 貞夫(音楽家) (五十音順・敬称略)

<審査講評>

ジュニアコンクール終了後にとりまとめ、各出演団体に送付いたしました審査講評の要点を以下に抜粋しますので、参考にしていただき、今後益々精進されることを期待しております。

<全体>技術の向上が伺える反面、演奏前後に無駄な振り付けをするチームが多い。

<課題曲>指示テンポより速く、課題曲「碧空」のイメージが感じられないチームが多く見受けられた。

<自由曲>太鼓の数量が多く、速いテンポのうえ大きな音量で演奏するチームが目立ち、聞いていて苦痛に感じる場合がある。しっかりとした音も出せない笛の使用が多く疑問を感じる。

日本太鼓ジュニアコンクールに出場して

橘太鼓[響座]ジュニア 山本 まどか(14歳)

私は、今回日本太鼓ジュニアコンクールに2度目の出場を果たして、目指していた「全国優勝」という嬉しい結果を頂きました。

昨年の全国大会では優勝することができず、悔しい気持ちでいっぱいでした。その悔しさをバネにして、厳しい練習を行ってきました。

県大会で優勝して、全国大会の切符を手に入れることができた時には本当に嬉しくて、みんなで喜びあいました。その後は九州大会に向けて、さらに厳しい練習が始まりました。九州大会は女子1人という不安もありましたが、他のメンバーと共に県大会に続き九州大会でも「優勝」という気持ちを強くもち、その結果、優勝することができました。

そして全国大会に向け練習は毎晩となり、きつい日もありました。目線・声・表情、そして楽しい気持ちで打ちぬくことを頑張りました。

3月22日の全国大会に向け、出発しました。昨年以上に優勝したいという気持ちも強く、また、ドキドキと不安でいっぱいでした。

私達の演奏となり、今まで教えて頂いたことを出し切り、一生懸命に演奏しました。演奏直後、涙が出ました。やり切ったという達成感だったと思います。

全演奏が終わり、いよいよ結果発表。私は、客席の方に座りじっと待ちました。特別賞が発表され、準優勝、そして優勝の発表となった時は、名前を呼んでもらえるかどうかの不安と、もしかしたら…というドキドキ感で胸がいっぱいになりました。

そして、「26番、宮崎県代表」と呼ばれた瞬間、飛びあがるほどの喜びと、また涙があふれてきました。表彰のため皆でステージに向かっているときは、信じられないという気持ちと、やったという思いでした。目指していた「全国優勝」という響きは、とてもとても嬉しかったです。

岩切座長をはじめ、指導してくださった先生方、支えてくれた家族や、応援してくれた友達、そして仲間感謝します。

海外太鼓交流～ブラジル・台湾・アルゼンチン招請～

ジュニアコンクールには、11回目となるブラジルと5回目となる台湾のチームに加え、今回初めてアルゼンチンが特別演奏を披露しました。

ブラジルからは昨年7月に行われた「第11回全ブラジル太鼓選手権大会」のジュニア部門(19団体191名参加)で優勝した「ブラジリア光太鼓」の15歳から18歳の男女12名と、引率8名の総勢20名が来日、台湾からは昨年10月に行われた「第5回台湾太鼓青少年選手権」(22団体254名参加)で2度目の優勝を果たした「葫蘆墩Smile太鼓團」の12歳から17歳の男女12名と、引率7名の総勢19名が来日しました。また今回はアルゼンチンから初めて「日亜学院・ブエノスアイレス太鼓」(12歳から15歳の男女14名と、引率4名の総勢18名)がジュニアコンクールに参加することとなり、特別演奏を披露しました。

3月20日(金)、ブラジル・台湾・アルゼンチンの3チームは善光寺をお参りし、日本文化の一つに触れました。21日(土)には、前回優勝の「岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組」も加わった交流会を行いました。子供達は英語や日本語を一生懸命話しながら交流を深め、またお互いの出し物に大きな拍手を送り終始笑いの絶えない楽しい会となりました。

ブラジルチームはコンクールで、ブラジルに移民した人々の苦勞、努力に敬意を表した曲「移民の子供達」を演奏、台湾チームは「台中伝説」を披露しました。アルゼンチンチームは「感謝」を特別演奏として披露、3チームそれぞれ課題曲とともに、練習の成果を見事に発揮した立派な演奏で、観客から大きな拍手を受けていました。

緊張で張り詰めた結果発表では、台湾チームは第3位・文部科学大臣賞を受賞、ブラジルチームは特別賞を受賞し、海外における太鼓演奏の技術向上が感じられました。

メンバーたちは一様に「日本のジュニアチームのレベルの高い演奏や舞台進行を目の当たりにして驚くともに感動した」、「自分達も益々がんばっていききたい」と話していました。



(ブラジル人学校での演奏風景)

翌日23日(月)、台湾チームは東京ディズニーランドを訪れ、目一杯楽しみ、24日(火)に帰路につきました。

ブラジル・アルゼンチンチームは23日(月)、特別講習会を受講。終了後にバスで群馬県へ向かいました。24日(火)は、群馬県太田市「コレジオ・ピタゴラス・ブラジル」でブラジル人学校関係者約150人を前に太鼓演奏を披露し、生徒と関係者は大いに盛り上がりました。午後からは「ポートレース桐生」に移動し、レース間の2回、演奏を行いました。翌日は大泉町にある「大泉町文化むら」で日伯学園をはじめブラジル人学校の生徒・学校関係者約200名を対象に演奏を行いました。小さなお子さんが多く、大きな太鼓の音に最初はビックリしながらも楽しそうに太鼓を聞いていました。その後山梨県へ移動し、天気にも恵まれ美しい富士山を見ることができてみんな大喜びでした。

26日(木)、横浜にあるJICAの海外移住資料館を見学した後、日本財団を表敬訪問し、尾形理事長より歓迎と励ましのお言葉をいただきました。日本の印象や感想などの質問を受け、メンバーは緊張しながらも言葉を選びながら一生懸命答えていました。

穏やかな春の陽気の中、東京では桜が開花し、「太鼓演奏はもちろんのこと、あこがれの日本で素晴らしい体験をし、一生忘れない良い思い出となった。皆様に感謝したい。学んだことを活かして、これからもがんばって太鼓を続けていきたい」と元気に日本を後にしました。



(岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組との交流会)



(日本財団尾形理事長と記念撮影)

第9回全九州・日本太鼓ジュニアコンクールを開催！

12月21日(日)全九州太鼓連合主催の「第9回全九州・日本太鼓ジュニアコンクール」が、九州7県より54チームが参加して鹿児島県で開催されました。2012年度より、全九州太鼓連合と台湾太鼓協会の協議により双方のジュニア大会で優秀な成績を取めたチームが、互いのジュニアコンクールに出演することとなり、台湾の準優勝チーム「迦摩磔太鼓團」が特別出演いたしました。レベルの高い争いを制し、「橘太鼓『響座』ジュニア」(宮崎)が優勝を果たしました。審査委員並びに成績結果は、次の通りです。

<成績結果>

優勝：橘太鼓「響座」ジュニア(宮崎)
 準優勝：日向の国「響」(宮崎)
 第3位：おおむら太鼓連くじら太鼓(長崎)
 第4位：人吉ねぶか太鼓(熊本)
 第5位：火の神乙女太鼓奏(鹿児島)
 特別賞：二丈太鼓「恬」(福岡)、二丈絆太鼓(福岡)、霧島九面太鼓保存会郷花(鹿児島)、由布はさま太鼓(大分)、日南太鼓衆「爽空」(宮崎)、志布志ちりめん太鼓(鹿児島)、龍潮太鼓いろは隊(宮崎)
 浅野賞：山川ツマベニ少年太鼓(鹿児島)
 財団賞：和太鼓たぎり(福岡)

<参加団体> 55団体

福岡7、長崎7、佐賀7、大分3、熊本10、宮崎10、鹿児島10
 特別出演：「迦摩磔太鼓團」(台湾ジュニアコンクール準優勝チーム)

<審査委員>*敬称略

古屋邦夫(日本太鼓財団技術委員長)*審査委員長
 江頭啓輔(三菱ふそうトラック・バス(株)相談役)
 藤重佳久(一般社団法人日本マシニング'パント'協会副理事長)
 新福憲一(鹿児島市文化振興課文化振興アドバイザー)
 松元和敏(全九州技術委員長)



(台湾・迦摩磔太鼓團)

<第52回日本太鼓全国講習会(鹿児島)>

2月21・22日(土日)、全九州太鼓連合、鹿児島県支部主管による全国講習会を鹿児島市の「鹿児島県立青少年研修センター」にて実施いたしました。全国12都道府県に加え、台湾、シンガポール、アルゼンチンを含めた162名が受講しました。開会式では財団塩見理事長と全九州太鼓連合の長谷川名誉会長から励ましと歓迎の挨拶があり、講習会が始まりました。受講生たちは一生懸命、講習に励んでいました。

- | | | | | | |
|---------|------|-------|--------|---------|-------|
| ○基本講座講師 | 総合指導 | 古屋 邦夫 | ○専門講座 | 御諏訪太鼓講座 | 松枝 明美 |
| 3級基本講座 | | 安江 信寿 | 八丈太鼓講座 | 菊池 修 | |
| 4級基本講座 | | 若山 雷門 | 源流太鼓講座 | 長谷川 義 | |
| 5級基本講座 | | 田中 俊己 | | | |

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

- | | | |
|------|-------|--------------|
| 1級検定 | 25名受験 | 25名合格(12名認定) |
| 2級検定 | 32名受験 | 29名合格(9名認定) |
| 3級検定 | 13名受験 | 13名合格 |
| 4級検定 | 26名受験 | 26名合格 |
| 5級検定 | 42名受験 | 42名合格 |



(御諏訪太鼓講座の様子)

<第63回日本太鼓支部講習会(東京)>

2月14・15日(土日)、東京都支部主催による支部講習会を東京都港区の「日本財団ビル」にて実施いたしました。全国12都道府県から63名が受講しました。開会式では東京都支部の宮本副支部長から励ましと歓迎の挨拶があり、講習会が始まりました。受講生たちは一生懸命、講習に励んでいました。

- | | | |
|---------|------|-------|
| ○基本講座講師 | 総合指導 | 古屋 邦夫 |
| 3級基本講座 | | 松枝 明美 |
| 4級基本講座 | | 三浦 一浩 |
| 5級基本講座 | | 渡辺 洋一 |

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

- | | | |
|------|-------|-------|
| 3級検定 | 11名受験 | 11名合格 |
| 4級検定 | 26名受験 | 26名合格 |
| 5級検定 | 17名受験 | 17名合格 |



(4級基本講座の様子)

***日本財団が助成している「日系スカラーシップ・夢の実現プロジェクト」で、太鼓を学ぶため留学中の栄口カロリーナさんに前号に引き続きご寄稿いただきました。**

皆さん、こんにちは。アルゼンチンの栄口カロリーナです。

今回は3月22日(日)に長野市で行われた第17回日本太鼓ジュニアコンクールについてお伝えしたいと思います。

この素晴らしいコンクールには台湾、ブラジルや日本各地の優秀な太鼓のジュニアチームが集い、その技術を競います。今回は日本太鼓財団のお力添えで、初めてアルゼンチンチームが特別参加として出場することができました。実際にコンクールが開催されたのは22日(日)でしたがアルゼンチンチームは19日(木)に日本に到着して以来、様々な体験をさせていただきました。

すべてが貴重な経験となりました。他のグループの練習を見たり、完璧な進行の様子、舞台装置などを見たり、本当の和太鼓の技術を学んだりしました。アルゼンチンチームの子供たちは単に太鼓の技術を学んだだけでなく、日本文化そのものに触れる機会を得て様々なことを学んだと思います。

私にとっても初めてのコンクール参加でした。参加者は皆子供なのに、舞台上に立つとまさに技術だけでなく振りや表情も大人のプロのようでした。何もかもが驚きでした。準備、進行も素晴らしかったです。スタッフの方々からは行き届いた心配りをさせていただき、すべてが時間通りに進んだのも驚きでした。皆が素晴らしいチームワークで行動していたのを見てとても感心し、そこから学ぶことがたくさんありました。

コンクールが終わった後も色々配慮していただき感謝の気持ちでいっぱいです。日本の代表的な場所、和食、そしてお花見や富士山、雪も見ることができました。最後はディズニーランドにも行けて夢のような素晴らしい日々でした。温泉も入ることができました。アルゼンチンではビキニで温泉に入るのですが、日本の場合は裸で入らないといけないので、最初は皆がとても恥ずかしがって、入れませんでした！しかし、チームの中で率先した女の子たちが他のメンバーに温泉がとても気持ちよいと伝えたところ、最後には半分ぐらいのメンバーが入る事が出来ました。その他、短い間でしたけれど日本やブラジル、台湾のチームの子供たちとたくさんの面白い話をしましたし、友達もいっぱい出来たようでした。うれしかったです！この貴重な経験は一生忘れないと思います。この機会にわたしたちは大きく成長することができました。それが今後もっともっと技術を向上させていくための大きな力となると確信しています。

アルゼンチン太鼓協会としても正式にコンクールに出場できるように努力を続けていきます。ありがとうございました。



(富士山の前でアルゼンチンのメンバーと)

訃報

日本太鼓の普及、発展にご尽力いただきました石田榮一氏が、2014年12月15日にご逝去されました。(享年93歳)

石田氏は「北海道くしろ蝦夷太鼓保存会」の代表として、国内外問わず公演を行い、北海道の太鼓文化に多大な貢献をされました。2010年には念願の「サントリーホール」(東京)において単独公演を成功されるなどの活動に、文部科学大臣賞を始め、多くの団体から表彰されました。ここに謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

日本太鼓の普及、発展にご尽力いただきました隅田諫氏が、2015年3月6日にご逝去されました。(享年77歳)

隅田氏は永きにわたり「ねむろ太鼓保存会」の代表として、北海道の郷土芸能を築き、育ててこられました。また北海道道東支部の立ち上げにもご尽力いただきました。ここに謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

各種会議を開催

第53回運営委員会並びに第52回技術委員会が1月8日(木)に東京にて開催され、次の事項が審議、承認されました。

<運営委員会・技術委員会>

1. 「2014年度事業の実施状況について」
 - ①第17回日本太鼓ジュニアコンクールについて
課題曲、審査委員、出場団体に関して審議し、決定すると共に、抽選により出場順番を決定した。
 - ②第18回日本太鼓全国フェスティバル実施報告について
 - ③第16回日本太鼓全国障害者大会の実施報告について
 - ④第11回日本太鼓ニアコンクールの実施報告について
2. 「2015年度事業の実施について」
 - ①2015年度事業の実施について
 - ②日本太鼓助成金交付事業について
2015年度助成金交付35事業のうち、兵庫県支部から追加申請したいとの報告があり、その正式な申請を前提とした事業を含む33事業について説明があり、審議の結果、33事業全てを助成金交付対象とすることとした。なお、残る2事業については追加募集することとした。
 3. 日本太鼓ジュニアコンクールについて
 - ①ブロック区分について
ジュニアコンクールの開催要領の変更を前提として、全国のブロック分けについて資料を基に説明した。その結果、全国を7区分(北海道[5支部]、東北6県[6支部]、関東7都県[7支部]、中部9県[9支部]、近畿7府県[5支部]、中国・四国9県[6支部]、九州・沖縄8県[8支部])にする方式を採用することとした。

- ②日本太鼓ジュニアコンクール開催要領の変更について

ジュニアコンクールのブロック大会における審査の結果を基に、一定の基準を満たした団体については、全国コンクールに出場を認めることとなった。それにあわせて、ブロック大会に関する基準を新規に定めると共に、開催要領の一部改正について審議した結果、原案の内、「コンクール」との表記を「全国コンクール」とよりわかりやすく表記し直すこととし、満場一致で決定した。

4. 日本太鼓資格認定事業について

- ①公認指導員第6期更新研修会の実施について

3年に1度行われる、公認指導員の更新研修会について、2015年度は開催年度にあたるため第6期公認指導員更新研修会の実施案について説明があった。検討の結果、全国講習会3回(静岡、宮城、長崎)と北海道での支部講習会において実施することとなった。

- ②アルゼンチンにおける資格認定について

アルゼンチン太鼓協会から、ブラジル・台湾と同様に日本太鼓資格認定制度を導入したいとの要請があり、アルゼンチン太鼓協会の現状を詳細に調査し、将来的に開催する方向で再度検討することとした。

第7回理事会並びに第6回評議員会が3月13日(金)に東京にて開催され、次の事項が審議、承認されました。

<理事会>

1. 2014年度事業計画及び収支予算の一部変更について
2. 2015年度事業計画及び収支予算について
3. 評議員会の開催について
4. 職務執行状況について

<評議員会>

1. 2014年度事業計画及び収支予算の一部変更について
2. 2015年度事業計画及び収支予算について
3. 職務執行状況について

事務局だより

第6期公認指導員更新研修会の案内

規定により3年毎に行われる公認指導員の第6期更新研修会は、以下のとおり2015年度の日本太鼓全国講習会と北海道の支部講習会であわせて実施します。対象は2015年3月31日現在、1級技術認定員に降格中の公認指導員を含む210名となります。

- 第1回(第53回日本太鼓全国講習会)6月13日～14日(土日)島田市川根文化センターチャム21(静岡県島田市)
- 第2回(第54回日本太鼓全国講習会)9月12日～13日(土日)田尻文化センター(宮城県大崎市)
- 第3回(第68回日本太鼓支部講習会)10月24日～25日(土日)幌向総合コミュニティセンターほっとかん(北海道岩見沢市)
- 第4回(第55回日本太鼓全国講習会)2月20日～21日(土日)シーハットおおむら(長崎県大村市)

*なお、この研修会に不参加の場合は、公認指導員としての資格を喪失しますのでご注意ください。

*更新研修会の回答書をまだ返送されていない方は、お早めに事務局まで返送願います。(Fax.03-6229-5580)

第53回日本太鼓全国講習会について

期日：2015年6月13日・14日(土日)

会場：島田市川根文化センター チャリム21 静岡県島田市川根町家山1173-1 TEL 0547-53-3511

主催：(公財)日本太鼓財団

総合指導 古屋 邦夫(技術委員会委員長)

基本講座

3級基本講座 安江 信寿

4級基本講座 景山 道隆

若山 雷門

5級基本講座(初心者講座) 松枝 明美

*第6期公認指導員更新研修会同時開催

申込先：(公財)日本太鼓財団

〒107-0052東京都港区赤坂1-2-2

TEL 03-6229-5577 FAX 03-6229-5580

専門講座

尾張新次郎太鼓講座(複式単打法) 安井 富(愛知県)

大江戸助六太鼓講座(単式複打法) 小林 正道(東京都)

天邪鬼太鼓講座(複式複打法) 渡辺 洋一(東京都)

お問い合わせ：日本太鼓財団静岡県支部

担当：清水久貴 TEL 080-1579-2159

締切：2015年5月31日(日) 当日到着分まで有効

2015年度日本太鼓助成金交付事業決定のお知らせ

運営委員会において、次の33事業が承認されました。報告書受理後、助成金20万円が交付されます。

<支部講習会> 6事業(海外含む)

4月18・19日(土日)日本太鼓支部講習会(青森県七戸町)

5月16・17日(土日)日本太鼓支部講習会(茨城県取手市)

7月4・5日(土日)第9回台湾太鼓講習会(台湾桃園縣)

8月22・23日(土日)日本太鼓支部講習会(大阪府泉佐野市)

10月17・18日(土日)日本太鼓支部講習会(兵庫県たつの市)

10月24・25日(土日)日本太鼓支部講習会(北海道・岩見沢市)

<教職員> 7事業

6月28日(日)北海道道北教職員太鼓研修会(北海道旭川市)

7月23日(木)群馬県教職員太鼓研修会(群馬県前橋市)

8月7日(金)北海道道西教職員太鼓研修会(北海道砂川市)

8月16日(日)長崎県教職員太鼓研修会(長崎県波佐見町)

8月24・25日(月火)島根県教職員太鼓研修会(島根県出雲市)

8月予定 栃木県教職員太鼓研修会(栃木県宇都宮市)

9月23日(水祝)長野県教職員太鼓研修会(長野県岡谷市)

<一般事業> 20事業(海外含む)

4月26日(日)富山県太鼓打ち競技会(砺波市)

5月31日(日)ボート7河辺もりっと収穫祭「太鼓祭り」(秋田市)

7月4・5日(土日)全九州太鼓連合設立20周年記念太鼓フェスティバル(熊本市)

7月11・12日(土日)雷童サマースクール(羽咋市)

7月25・26日(土日)全九州和太鼓サマースクール(由布市)

9月13日(日)山形県太鼓の祭典(酒田市)

9月21日(月祝)北海道太鼓の祭典(旭川市)

9月21日(月祝)日本ろう者太鼓同好会広島公演(広島市)

10月4日(日)室蘭和太鼓會20周年記念演奏会(室蘭市)

10月10日(土)台湾太鼓第8回フェスティバル・

第6回ジュニアコンクール(台湾台中市)

10月10日(土)全九州ジュニア和太鼓団体海外派遣交流事業(台湾)

10月12日(月祝)佐賀県和太鼓KIDSフェスティバル(佐賀市)

10月17日(土)みやざき太鼓の祭典(清滝町)

10月31日・11月1日(土日)国民文化祭太鼓の祭典

和太鼓ワークショップ(出水市)

11月8日(日)東北太鼓フェスティバル(奥州市)

11月15日(日)太鼓でドン(明和町)

12月6日(日)福岡県和太鼓フェスティバル(飯塚市)

12月23日(水祝)全九州・日本太鼓ジュニアコンクール(佐世保市)

2016年2月7日(日)関八州太鼓まつり(東金市)

2016年2月14日(日)雷童太鼓大会(白山市)

★助成金2事業追加募集★

助成金交付事業は、1事業助成金20万円です。現在2事業の追加募集を行っております。

希望される支部は、お早めに財団事務局までお問い合わせ下さい。

(公財)日本太鼓財団 TEL 03-6229-5577 FAX 03-6229-5580 メール info@nippon-taiko.or.jp

★会報は当財団ホームページでも閲覧できます★

会報はバックナンバーも含め、当財団ホームページの「新着情報」から閲覧可能です。ぜひご覧下さい。

<http://www.nippon-taiko.or.jp/>